

## 日本児童文学学会創立60周年記念論文入賞作の決定について

日本児童文学学会は、創立60周年を記念し、児童文学・児童文化研究に大きな飛躍と前進をもたらすような斬新な論文を募集しました。

締切は、二〇二二年六月二〇日で、22編の応募論文が集まりました。60周年記念論文審査委員会(佐藤宗子委員長・大橋崇行・川勝泰介・武藤清吾・横川寿美子の各委員)が選考にあたりました。結果は次のとおりです。

なお、授賞式は、一月一九日(土)午後三時一五分より、当学会第61回研究大会の席上にて行います。

二〇二二年一〇月

日本児童文学学会会長 宮川 健郎

### 入選

なし

### 佳作

◇梅野愛子「包撰と排他：絵本 *Julian is a Mermaid* におけるジェンダーアイデンティティ承認の描かれ方」

#### 【贈賞の理由】

本論文は、Jessica Love による絵本 *Julian is a Mermaid* を分析した意欲的な論考である。既存の枠組みを用いた分析という側面はあるものの、近年 Twitter 上などで展開している *queer voices* 運動などからテクストを位置づけ、児童文学研究においてジェンダーをめぐるアクチュアルな問題を取り上げることの重要性を示した試みとして意義があると認められることから、本論文を佳作とした。

【受賞者の略歴】グラスゴー大学修士課程児童文学・リテラシーズコース修了。現在、日本女子大学大学院人間生活学科博士後期課程。専門は、シヨン・タンを中心とした絵本研究。

### 佳作

◇南平かおり「バジョーフ作『石の花』をめぐる 1953年から1963年までの翻訳者たちはいかに作品を捉えたか」

#### 【贈賞の理由】

本論文は、ソ連の作家バジョーフの日本における紹介について、『石の花』を含む『孔雀石の小箱』が初めて翻訳された一九五三年から六三年に期間を区切り、この間の初期段階の翻訳作品群を対象とし、『石の花』がとる「スカース」という独特のスタイルの理解のあり方を含めて、受容がはらむ問題を丁寧に検証したものである。文学叢書が隆盛であった時期に、最初の一般向け翻訳から少年少女向け全集収録、さらにはロシア語専門外の作家による再話までを視野に入れた追究であり、これを基盤とした今後の研究の広がりが見込まれる。

#### 【受賞者の略歴】

早稲田大学大学院文学研究科ロシア文学専攻博士課程単位取得退学。児童書の出版社勤務を経て、現在は早稲田大学・津田塾大学非常勤講師。専門は、ロシア・ソ連児童文学、日露比較児童文学。主な論文に「児童文学者としての秋田雨雀とロシア文学：童話『鷹の御殿』と『露西亜童話集』をめぐる」（早稲田大学ロシア文学会「ロシア文化研究」23号、2016年）などがある。